

# ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～  
vol. 37

2022年10月21日

## 子どもシェルター全国ネットワーク会議 2022 に参加して

子どもシェルター全国ネットワーク会議2022が、2022年9月17日に開催されました。今回は横浜・てんぼの御担当でぎりぎりまで現地での開催が模索されましたが、コロナ感染流行のため3年連続でZOOM会議の形式で行われました。全国から21の団体とシェルター設立の準備を進めている3団体、そしてオブザーバー参加1団体の役員、職員及び子ども担当弁護士など164名の方が参加して熱心な議論が交わされました。

会議は、総会、運営・子ども担当・職員・自立援助ホームに分かれての分科会、そして分科会を総括する全体会という流れで行われました。

全体会では、子どもシェルターのための第三者評価基準策定の検討状況の報告やこれからシェルターを立ち上げようとしている団体への支援状況、一時保護の司法審査導入など児童福祉法改正の動きに対する対応の報告などが行われました。また、厚労省子ども家庭局の方から国として自立生活支援事業の拡充や予算措置などについての行政説明があり、我々の活動にも役立つと思われる事業もあることから、広島市にも確認していくことが必要であると思いました。

また、私が参加した運営者の分科会では、職員が退職するなどした場合の人材の確保やその

前提となる労働条件や、運営者と職員との意識の差をどう埋めるか、施設内で盗難事件が発生した場合の対応、暫定定員の適用除外などについて、各団体の実情や取り組みを報告し合い、他の団体も私たちと同様の課題や悩みを持ちながら活動していることを実感し、また今後の施設運営の参考となることも多々あり、有意義な意見交換となりました。全国で苦勞しながら、また熱い思いで活動している他の団体の状況を聴くことは、改めて次の1年に向かっての大きなエネルギーをもらうこととなります。

分科会後の全体会では、2023年度の開催地が広島ということに決定しました。今のところ2023年秋に開催を予定しており、広島に全国の皆様をお呼びして開催したいと考えております。集い合っただけの開催となると4年ぶりとなり、また開催には多大な苦勞も伴いますが、広島での私たちの活動が大きく飛躍できるチャンスととらえ、広島弁護士会子どもの権利委員会などのご協力も得て、実りのある会にしていきたいと考えております。

皆様、よろしくお願ひ申し上げます。

理事長 鵜野 一郎

## ピピオの活動に思う

ピピオが、生まれたのは、2011年でした。広島弁護士会の皆さんの努力でできた、広島では初めての“10代の子ども達の生活支援のシェルター施設”です。当時は、東京、横浜などの大都会を中心に数か所ありましたが、それらを参考にしてシェルターを作りました。それから10年以上たちました。親の事情によって、家庭の温かさに恵まれない多くの子ども達が、一時の休息をとって、元気に、巣立ってゆきました。

親元に帰った子ども、就職して一人で暮らしている子ども等、色々です。大切なことは、お世話をした子ども達の自尊心の芽が育ち、一人で生きて行ける方法を、学んだことです。勿論、ご家庭の反省があり、子育ての方法を見直して

いただいた例も多くありました。

ピピオ発足から10年余り、今では女子用のシェルターと男子用の自立援助ホームができ、支援者も増えてきました。行政の応援や企業からのご寄付も頂いて、順調に運営ができています。

しかし、ピピオの入所者がこれ以上増えないような社会を作ることが、私たちの第一の希望です。

明日の子ども達のために、さらに努力が必要です。頑張りましょう！

理事 桑原 正彦

## ボランティアスタッフ養成講座を開催しました

昨年度のボランティアスタッフ養成講座は、Zoomでのオンライン開催としましたが、今年度は対面で全8講を開催しました。

新しくボランティア活動への応募をされた皆さんのほか、現ボランティアの方、弁護士、ピピオの家・はばたけ荘のスタッフも参加し、虐待によるトラウマ、子どもの性被害、発達障害

のある子どもに関する事などを学びました。

皆さん大変熱心に受講され、ピピオの家・はばたけ荘の新しいボランティアスタッフとして加わっていただきました。

ボランティアスタッフの皆さま、今後ともピピオへのご協力をよろしくお願いいたします。

### ■第12回ボランティアスタッフ養成講座の概要

(本講座は公益財団法人マツダ財団とピピオ子どもセンターとの共同事業である「スタートラインプロジェクト」として実施しています。)

講	開催日	テーマ	講師
第1講	6月8日	ガイダンス及び子ども担当体験報告	鶴野一郎理事長、船本 夕里亜弁護士
第2講	6月15日	虐待と非行との関連ートラウマのある非行少年の理解と対応についてー	広島法務少年支援センター 地域非行防止調整官 林 秋成氏
第3講	6月22日	居場所のない子どもたちの実情	中本忠子副理事長（食べて語ろう会理事長） 蓮見和章理事
第4講	6月29日	性被害経験のある子どもとの関わり方～性被害ワンストップセンターひろしまでの支援から	性被害ワンストップセンターひろしま コーディネータ 宇野しのぶ氏
第5講	7月6日	ピピオの家・はばたけ荘ってどんなところ？	ピピオの家スタッフ、はばたけ荘スタッフ
第6講	7月13日	ピピオにくる子どもへの接し方	広島文教大学非常勤講師 公認心理士 熊谷郁夫氏
第7講	7月21日	発達障害に関する話題提供を少し～『わかり方』と『繋がり方』	医療法人翠星会松田病院 精神科児童精神科 医師 洲浜裕典氏
第8講	7月28日	ピピオの活動と子どもの権利にまつわる法について	平谷優子理事

## 第12回通常総会のご報告

2022年度（第12回）通常総会が、2022年6月4日午後2時から広島弁護士会館で開催され、正会員69名のうち委任状出席も含め46名の方が参加されました。

総会では、令和3年度事業報告及び収支決算の件、令和4年度の事業計画及び活動予算の件について、いずれも全員一致で議案のとおり決議、承認されました。この中で、子どもシェルターの物件の移転やアフターフォローなど今後の活動について意見交換がされました。子どもシェルターの物件の移転については、子どもシェルターに合ったよりいい物件を前向きに検討するとして、今後も活動を継続的に行うという点も考慮して、物件確保の在り方や場所の選定について慎重に検討すべきだとの意見がいただきました。また、アフターフォロー事業も、私

たちの活動の中でその必要性を感じているものであるが、その取り組み方については既にその事業を行っている他の団体の取り組みなどを参考に検討していくべきだといった意見が出されました。さらに、これらの取り組みについても、私たちの活動を継続的に行っていくという視点から、慎重に検討して欲しいとの意見も出されました。

今後とも、困難を抱え居場所をなくした子どもを支え、その子の意思を尊重しながら寄り添っていくとの活動の原点を確認しながら、さらに安定、かつ充実した活動を進めていきたいと考えておりますので、暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

理事長 鶴野 一郎

## スタッフ通信

「ピピオの家」スタッフのNです。

ピピオ子どもセンターには“スタートラインプロジェクト”というものがあります。

公益財団法人マツダ財団のご協力の元、子ども達にマネー教室、アンガーマネジメント、喫煙・薬物問題、性教育、消費者教育、インターネット教育等々の自立支援プログラムがあり、カウンセラー、警察、弁護士の方々に協力を仰ぎ行っております。その中に自炊訓練、生活訓練もあり、それらはボランティアさんやスタッフが教える事になっています。

ピピオでは洗濯物に関しては、自分の物は自分で洗濯機を回し、干して貰っています。

洗濯機が家の物と違う事もあったりして、最初はスタッフが使い方を教える事もあります。

食事に関しては、絶対という訳ではないのですが、興味・関心の無い子でも一人暮らしが決まった子には、退居前に幾度か一緒に食事作りをします。元々家に居た時に家事をしていた子もいて、そんな子は自ら積極的に「やりたい！」と言って台所に立つ子もいますが、時には「家

ではさせて貰えなかった。何れ一人暮らしをする時の為に覚えておきたい。」と言い、ボランティアさんやスタッフに教わりながら台所に立つ子もいます。

台所には立たずに、気に入ったレシピを丁寧にノートに写していた子もいました。

そこで、問題が。実は、私は誰かに何かを教える…という事が苦手で、しかも少し？潔癖なところもあるので、一から教えるとなると難しさを感じていたり、自分のペースを崩されるのが嫌だったりしました。そんな中、先日退居した子が一人暮らしをする訳でもないのに「食事作りをしたい。」と言い出しました。最初は包丁を持つのもぎこちなく、こちらが大丈夫かなあ〜？と思う程で、本児自身も不安だったのか、レシピ本を見たり、スタッフに一つ一つ工程を確認したりしながら進める…といった具合でした。何度か取り組む内に最初の心配は無くなり随分上達し、何度か夕食作りを一緒にする事がありました。“鶏のから揚げ”“豚肉の生姜焼き”“グラタン”“プルコギ”等を一緒に手作りし、美

味しく出来たと納得していたと思います。

そんな中、私にも少し変化が…。一緒に食事を作る事が苦手とっていたり、目分量が難しかったりしていたのですが「〇〇はどれくらい？」と聞かれて「適当。最初は薄いくらいの方が良いよ。後で足す事は出来るから。」等と普通の事ですがアドバイスして、一緒に台所に立

つ事が出来ていました。子どもを通して、ほんの少しですが、私自身も成長出来たように感じており感謝しています。

子どもは勿論ですが、スタッフ（特にN）の成長の為にも、今後とも、ボランティアさんをはじめ、多くの皆さま方のご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

## 一人暮らし体験用のアパートを借りました

ピピオ子どもセンターでは、特にはばたけ荘からの退居後に一人暮らしをする予定の子が、退居前に一人暮らしの体験をするためのアパート1室を借りました。

一人暮らしになれば、朝の起床、朝食、出勤・登校～夕食、入浴、洗濯、時にゴミ出し等々、自分自身が生活のペースメーカーにならなければいけません。また、帰宅後に就寝するまでの時間をどのように過ごすのか…その子の特性

やそれまでの経験にもよりますが、そう簡単なことではありません。一人でやることの面倒くささや寂しさを感じることもあったり、上手くできないことがあって困ったりすることもあるでしょう。そういったことを体験・発見して、はばたけ荘にいる間の生活で身に付けておくことや一人暮らしの工夫などを一緒に考えていけるようにしたいと考えています。

ピピオ事務局

## ピピオ掲示板

### 寄付等のご協力ありがとうございました

神原様、小武家様、井上様、高井様、橋本様、こね森内科医院様、山口様、寺西様、倉田様、片桐様、瀬戸様、神田様、野口様、二宮様、国際ソロブチミスト広島-もみじ様、佐藤様、高橋様、パナソニックホールディング株式会社様、香川様から寄付金等をいただいております。日々の子どものたちの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル 505号

TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659

ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>